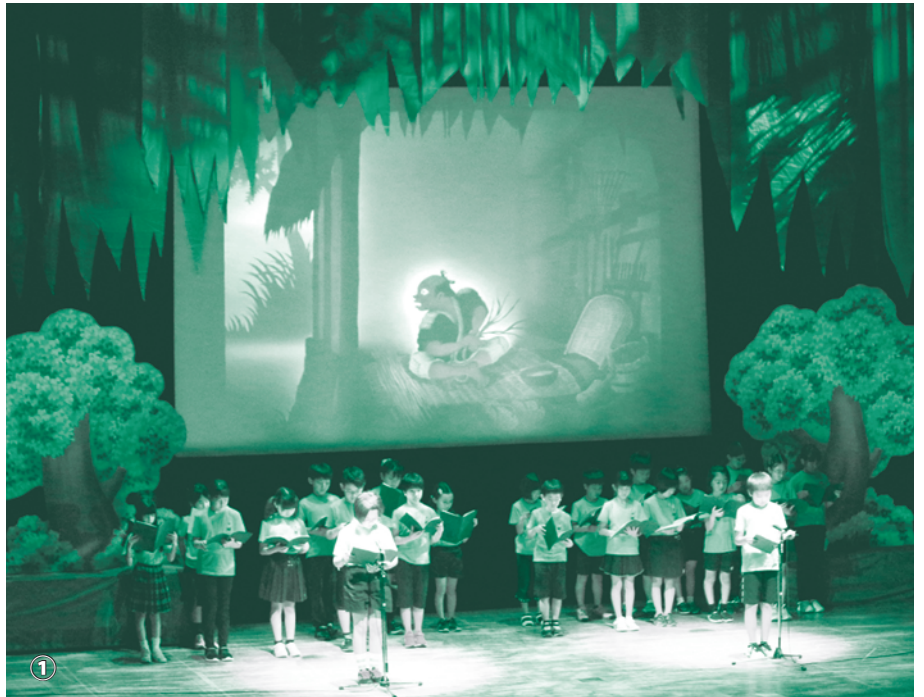


# 新美南吉記念館だより

NIIMI NANKICHI MEMORIAL MUSEUM NEWS

発行 新美南吉記念館 〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1・10・1 Tel. 0569-26-4888 <http://www.nankichi.gr.jp>



## 新美南吉生誕祭

～ 110 歳の誕生日をお祝いして～

- ①ふるさとの子どもたちが「ごんぎつね」を朗読
- ②南吉の遺族を代表して甥の渡辺矩夫さんが挨拶
- ③山根基世さんと松平定知さんが詩「明日」を朗読

## 七

月三十日(日)は「南吉さんの日」。新美南吉の誕生日です。今年はいぶらざ半田にて、生誕一〇〇年記念式典を行いました。

式典ではまず市長と来賓の挨拶があり、献花へ。開式前、来場者に花をさしてもらったアーティフィシャルフラワーのリースを捧げました。そして南吉の遺族を代表して、甥の渡辺矩夫さんが「南吉を愛する大勢の方々によって、作品が受け継がれていくことを期待

します」と挨拶されました。式典後は、生誕一〇〇年メイン記念事業「ごんぎつね」朗読会&読み語りコンサート

の時間です。この日のために四月から練習を重ねてきた子どもたちが、「ごんぎつね」をリレー形式で読んでいきました。声の大きさも調子もそれぞれながら、ごんや兵十の気持ち、それを取り巻く里山の風景が生き活きと伝わってくるような朗読でした。子どもたちを指導した「南吉童話お話の会 でんでんむし」による朗読もありました。

続くコンサートでは、元 NHKアナウンサーの山根基世さんと松平定知さん、リユート奏者の高本一郎さんが舞台へ。優しいリユートの音色とともに、「狐」「牛をつないだ椿の木」「泉」「春風」など、南吉の童話と詩を交互に朗読していき

ました。途中、南吉作品の魅力についてトークする場面も。松平さんが「小動物や花などに対する限らない愛」をあげると、山根さんは「心の機微を丁寧に描いていて古びない」と答えていたのが印象的でした。

そして最後に、子どもたち始め出演者全員が舞台上に上がり、南吉の詩「明日」を観客と一緒に朗読して、フィナーレとなりました。

\*

前日の二十九日(土)には「正八ちゃんの宵祭り」も開催しました(正八は南吉の本名)。台風や新型コロナウイルスの流行により長らく中止となっていたので、実に六年ぶりです。

祭りの開幕はお囃子の演奏から。陽が沈みかける頃、地元の岩滑山車保存会、岩滑新田平井組、岩滑新田奥組がそれぞれ太鼓と笛の音を響かせると、続いて登場したのは小さな「献灯隊」です。六人の子どもたちが前に出て、南吉の遺影にランプを捧げてくれました。その後、半田市長と教育長が挨拶し、最後に教育長が「南吉さん、おめでとう！」と声をあげると、周りからも「おめでとう！」の声が返り、楽しい宵祭りが始まりました。

会場となった芝生広場では、岩滑盆踊り保存会の協力で盆踊りが開催され、南吉も踊った岩滑盆唄「シヨ



「シヨ」を踊る様子(右写真)

ンガイナー」などを踊ることができました(右写真)。南吉は盆踊りが好きだったようで、昭和八年の日記を見ると、近所の常福院へ踊りの稽古を見にいったり、半田の順正寺まで行って新作の盆踊りを覚えてくる様子が書かれています。この日は他にも、射的や水風船、狐のフェイスペイントサービス、軽食などの夜店が出て、祭りに花を添えました。なお、祭りの運営にあたっては、半田信用金庫の職員の方々が協力してくださいました。

両日通して、地元の方々にも楽しく生誕一〇年を祝っていただくことができました。

### 新美南吉生誕一一〇年

## 南吉と長野ヒデ子の母の世界展

現在、新美南吉記念館では新美南吉生誕一一〇年「南吉と長野ヒデ子の母の世界展」を開催しています。(十月二十九日)

\*

令和五年の新美南吉生誕一一〇年前に、記念館では南吉作品で赤ちゃんのための絵本を記念につくれないかと検討していました。しかし、南吉作品は最も対象年齢の低いものでも幼児向けです。

そこで南吉の童話「狐」を描き、以前から記念館と関りのあった絵本作家の長

野ヒデ子さんに相談しました。すると、長野さんから、思いがけないお話をいただいたのです。

「私は、以前から『天国』の詩を絵本にしてみたかったんです。これはきつと、マザースタートになりますよ。」

南吉の詩が絵本になるのは初めてのことで。「マザースタート」も初めてきく言葉でした。これから子どもを迎える人たちのための絵本になるということです。思い返してみると、長野さんの『おかあさんがおかあ

さんになった日』は、子どもはもちろん大人の心にも響く作品で、特にこれから赤ちゃんを迎える人におすすみたい絵本です。そんな長野さんが詩「天国」を絵本にしたら、どんなに温かい作品になるだろう――。

南吉作品には、早くに実母を亡くした南吉の思いからか、しばしば優しく温かい母親が描かれます。そして長野ヒデ子さんは自分自身が母親であったことをきっかけに絵本づくりを始めた作家で、たくさんのお母さんを作品の中で描いてきました。『てんごく』の絵本、またこれまでの長野さんの作品と合わせて、南吉と長野さんの重なる思いを感じていただけたらと思います。

### 【関連行事】

ミュージアムトーク  
九月十八日(月・祝)、  
十月八日(日)・十四日(土)  
／十一時～(四十分程度)  
\*申込み不要

新美南吉生誕110年  
南吉と長野ヒデ子の母の世界展  
令和5年 7.15(土)~10.29(日)

■ 第1期 7/15(土)~9/10(日) 第2期 9/13(水)~10/29(日)  
 ◎ 全期 自由観覧(観覧券なし)にて観覧可能。①-③は観覧券を別途購入してください。  
 ◎ 観覧券 9:30~17:30  
 ◎ 観覧料 観覧料220円(中学生以下無料) ※観覧券もご購入いただけます。  
 ◎ 観覧日 7/15(土)~24(日)・31(日)・8/7(日)~8(日)・21(日)~28(日)・9/4(月)~  
 11(日)・12(日)・19(日)・10/10(日)・11(日)・15(日)・23(日)

8/11(日) 8時  
ばたばた絵本づくり  
9時開場 12:30~15:30 予約受付  
9:30~17:30 観覧券あり  
8/13(日) 8時  
お母さんと赤ちゃんの世界  
9時開場 13:30~15:30 予約受付  
9:30~17:30 観覧券あり

新美南吉記念館



## 長野ヒデ子×長野麻子「お母さんと赤ちゃんの世界」

八月十三日(日)、アイプラザ半田にて、絵本作家・長野ヒデ子さんと娘の麻子さん(東京成徳大学教授)による対談講演会「お母さんと赤ちゃんの世界」を開催しました。

講演会は主に、子どもと音楽の研究をしている麻子さんが聞き手となって進められました。

最初の話題はヒデ子さんが今年五月に出したばかりの絵本『てんごく』について。これは南吉の詩「天国」の絵本です。平成十一年に南吉童話「狐」の絵本を出した時からずっと、この詩



も絵本にしたいと思っています。たのだそうです。「天国」はお母さんにおんぶされる赤ちゃんの幸福を描いた作品ですが、絵本では今の時代に合わせて、だっこやお父さんもおんぶする姿が描かれています。「何でもない普通の生活がいかに大事で、平和につながるかを伝えたかった」というヒデ子

さん。その思いから、戦前・戦後と子どもたちを守ってきたお母さんの姿も絵本に盛り込んだそうです。それから、お二人が共著で出された絵本『まんまんなばっ!』と『すっすっはっはっこきゅ・う』の話に。ヒデ子さんが挿絵を描く際、麻子さんから遠慮なく注文をつけられたというエピソードな

ら、戦前・戦後と子どもたちを守ってきたお母さんの姿も絵本に盛り込んだそうです。それから、お二人が共著で出された絵本『まんまんなばっ!』と『すっすっはっはっこきゅ・う』の話に。ヒデ子さんが挿絵を描く際、麻子さんから遠慮なく注文をつけられたというエピソードな

どが披露されると、会場からは思わず笑いがこぼれていました。

そして話題は、ヒデ子さんの代表作『おかあさんがおかあさんになった日』へ。ヒデ子さん曰く、お母さんが「生まれる」お話を書きたいと思って作られたそうですが、取材でたくさんの出産に立ち会って、赤ちゃんが誰にも教えられず自力で生まれてくる姿に感動したといいます。そして「小さな子は誰でも、何でも分かるんだ。教えることなんて何にもないんだ」と気づき、子どもの力が発揮できる楽しい本を作ろうと思っ

て出来たのが、『せとうちたいこさん』シリーズなのだと言われました。全体を通して親子らしい掛け合いにくすりとする場面も多く、ヒデ子さんが自著の紙芝居を演じられるなど、終始和やかな雰囲気

の講演会でした。

## ベラルーシから南吉さんへ!

七月二十九日(土)、東欧ベラルーシ共和国にある日本文化情報センター代表の辰巳雅子さんが、ベラルーシの子どもたちが描いた南吉童話の感想画を届けてくれました。

ベラルーシから感想画が届くのは、これで二回目です。今回も首都ミンスク市にある国立青少年教育センター所属のハーモニー絵画教室に通う子どもたちが、南吉童話を読んだ感想を絵にしてくれました。

何故、遠い異国の地で南吉童話が読まれているのか。それは、日本文化情報センターがロシア語とベラルーシ語の南吉童話集を発行しているからです。以前、ハーモニー絵画教室ではこの童話集を読み聞かせ、感想画を描かせる授業がありました。その際、十六枚の絵を記念館へ寄贈してくださったのですが、今回は生誕一〇〇年を迎える南吉への誕生日プレゼントということで、さらに十九枚の絵が届けられました。

内訳を見ると、「ごんぎつね」と同じくらい「でんでんむしのかなしみ」が描



かれていきます。友だちを訪ねてまわるうち、最後には悲しみを「こらえる」ことを選んででんでんむしに、共感するものがあつたのでしようか。ベラルーシは今、隣国ロシアとウクライナの戦争がもたらす緊張によって揺れています。先行きの見えないう状況の中、南吉の童話を読んで笑い、そして生きる力が養われることを願って止みません。

# 記念館からのお知らせ

## みんなの南吉展 2023

南吉童話をテーマに、半田市内の児童発達支援施設の子どもたちが制作した作品が展示されます。南吉の世界をアートで表現することにより、環境や立場を越えて"みんながつながる"ことを目指した作品展です。

期間 9月30日(土)～10月9日(祝・月)

会場 クラシティ・半田赤レンガ建物

※記念館でも10月12日(木)～11月26日(日)展示予定



▲ 昨年の展示風景 (クラシティ)

## ガイドと朗読付き彼岸花ウォーク

彼岸花が咲く南吉のふるさとをガイドと共に歩きます。途中、南吉童話お話の会「でんでんむし」による朗読も聴きます。

日時 9月25日(月)

10時5分～12時頃

定員 15名(参加無料)

※少雨決行・申込みは記念館へ



## ごんの秋まつり 2023

9月下旬から10月初旬にかけて、記念館近くを流れる矢勝川に300万本の彼岸花が咲くのにあわせ、イベントを開催します。

期間 9月20日(水)

～10月4日(水)

※期間中、記念館は無休です

※各種イベント情報はQRコードへ



## 目誌抄

- 五月(皐月)
  - ▼3～6日 「正八ちゃん」の端午の節句。2016人参加
  - ▼21日 富安陽子×山本悦子対談・講演会「わたしの創作の『泉』」。183人参加。於雁宿ホール
  - ▼5日 中日新聞に新美南吉生誕110年特集記事が掲載される
  - ▼27日 「童話創作講座」第一回。23人参加
  - ▼28日 第189回新美南吉読書会。29人参加
- 六月(水無月)
  - ▼1日 無印良品(名古屋名鉄百貨店)で「新美南吉の言葉と風景展」が始まる(～6月25日)
  - ▼7日 岩滑北保育園園児が矢勝川堤で彼岸花の球根植付
  - ▼19日 岩滑小児童が矢勝川堤で彼岸花の球根植付
  - ▼24日 半田市立博物館で企画展「童話に見る昔の道具」が始まる(～9月3日)
  - ▼25日 第190回新美南吉読書会。26人参加
- 七月(文月)
  - ▼2日 企画展『ぼくは井戸である』『牛をつないだ椿の木』考。終了。会期

- 中観覧者数6786人
- ▼8日 「童話創作講座」第二回。18人参加
- ▼同日 未来屋書店(常滑店)で「新美南吉の言葉と風景展」およびブックフェアが始まる(～7月30日)
- ▼15日 新美南吉生誕110年「南吉と長野ヒア子の母の世界展」始まる(～10月29日)
- ▼17日 イオンモール常滑店で新美南吉生誕110年をPRするため「南吉童話お話の会 でんでんむし」が読み聞かせ。共催・未来屋書店
- ▼18日 ピースあいちで特別展「新美南吉の生きた時代 文学と戦争と平和」が始まる(～9月9日)
- ▼28日 アイプラザ半田でストップモーションアニメーション「ごん」上映会。記念館館長が解説
- ▼29日 「正八ちゃんの宵祭り」。430人参加
- ▼30日 新美南吉生誕110年式典・「ごんぎつね」朗読会&読み語りコンサート。509人参加。於アイプラザ半田
- ▼29・30日 「新美南吉生誕祭」。1543人参加。

